

なめしゅんべつ



福は内、鬼は外！中春別保育園で節分にちなんで豆まきがおこなわれました。
始めは元気よく「まめまき」をしていた園児たち。赤鬼登場でびっくりして、突然パニックになりましたが、果敢に赤鬼に向かってまめを投げる
勇気ある園児たちもいました。

北の大地に 夢紡ぐ

次世代を担う若者たち

今月号より新たな企画として、これからの中春別地区を担う若き酪農家に注目していきたいと思います。初回は、美原地区の有限会社小西牧場の後継者・小西祐司氏に取材を受けていただきました。

良質で安心・安全な 牛乳を消費者へ届けたい

美原地区・有限会社 小西牧場後継者 小西 祐司さん（31歳）

小西牧場の歴史

昭和53年に祐司さんの父・康夫さん23歳の時に、現在の美原地区に入植しました。入植時は、繋ぎ牛舎で経産牛40頭から経営をスタートし、入植から6年後の1月に長男の祐司さんが誕生しました。

すくすくと成長する祐司さんと同じように小西牧場も順調に成長を続け、祐司さんが小学校に入学する年に、フリーストール牛舎を建設、パイプライン搾乳からミ

ルキングパーラー搾乳に大きく搾乳方法や飼育方法を変更しました。この時で経産牛頭数は入植時の2倍となる、90頭に増え、乳量が入植時の3倍近く出荷するまでになりました。

その後も、徐々に牧場の規模拡大を進め、平成14年に有限会社小西牧場を設立。この時祐司さんは、北海道酪農学園に入学し、酪農の専門知識を得るために勉学に励みました。

大学卒業後、まっすぐ実家の牧場に就農。始めは分からない事が多く、戸惑うこともたくさんありましたが、父や一緒に働く先輩に

支えられ、仕事の楽しさ、厳しさを覚えていきました。

祐司さんが就農して4年目となる平成22年、現在の形態であるロータリーパーラー施設が完成しました。現在は、従業員12人（内研修生4人）、経産牛520頭を飼育管理し、乳量は年間4700トンを出荷するまでに成長を遂げました。

酪農家として 生きていくきっかけ

祐司さんに「酪農家として、生きていくと決めたきっかけはいつ頃ですか?」とお聞きすると、小学生や



父や先輩に支えられながら将来の設計に夢を馳せる毎日

中学生の時は、自分の将来について、酪農家として生きていくと言った明確な考えはまだなくて、ただ「長

男だから継ぐのかな?」と漠然と思っていました。しかし、高校に進学してから、自分の将来について明確な

ビジョンを持った考えの仲間と出会って刺激され、「自分はこれからどうやって生きていこうか」と真剣に考えるようになりました。高校2年生の時に、自分を育ててもらった父の仕事に興味を持つようになりました。それから、いろいろ調べていくうちに、自分は酪農について知らないことが多いと痛感し、一念発起し「酪農学園へ進学して専門の知識を勉強し、父の後を継いで行こう」と決心したのが、酪農家として生きていくことを決めたまさかへと教えてくれました。

酪農家の面白さと辛いとは？

「酪農家として面白いと



牛舎入口に貼ってあるプレート

小西祐司プロフィール

1984年1月21日小西牧場の2男1女の長男として生まれました。2005年酪農学園を卒業後、家業の小西牧場2代目として実家に戻り現在に至る。趣味はドライブ、スノーボード。



いつか尊敬する父に追いつき追い越すことができたら…と将来について笑顔で話す祐司さん

ころは、自分が努力次第で結果が目に見えて現れるところで、少しでも手を抜くと、大きく結果に現れるので、妥協ができないと仕事のやりがいを感じている。辛さについては、朝が苦手なので就農したばかりの頃は、毎朝起きるに一苦労したくらいで、今でも冬になると、たまに布団から出るのに苦労する」と、笑いながら話してくれました。

休日はどう過ごされていますか？

「休日は、基本的に疲れを癒すためにゆっくりする

ことが多く、夏の晴れた日にはドライブに出掛ける。また、ゆっくり数日休みが取れる時は、十勝のサーキットで愛車を走らせるが夏の過ごし方かな。冬になると近くの金山スキー場にスノーボードを滑りに行ったり、年に1回程遠出してルスツやトナムと言った大きな山で滑って、気分転換をして過ごしている」。

これからの目標を教えてください

「こらからの目標を祐司さんに尋ねると、しばらくの間沈黙し、「自分の代で年間乳量1万トンを出荷すること！」と自分の中に秘めた目標を教えてくださいました。

この言葉の後、「まだまだ自分は、知らないことも多く未熟者なので、父の経営技術を学びながら、いつか父に追いつき、追い抜いていけるようにこれからも一所懸命に頑張って行きたい」と言ってインタビューが終えられました。

今回、快く取材を受けて



いただいた小西祐司さんありがとうございました。

良質粗飼料確保に係る講習会

良質粗飼料生産利用対策委員会

せつかくの草地更新を より良いものにするために

合同講習会

良質生乳生産推進委員会(西川寛稔委員長)、良質粗飼料生産利用対策委員会(伊藤一吉委員長)豊原・美原 中春別酪農振興会では2月23日(月)団地センタートレーニング室にて、参加者40人のもと合同講習会が行われました。

草地更新と雑草対策

草地更新と雑草対策とし、根室農業改良普及センター 鬼頭係長に講演いただきました。



鬼頭講師による草地更新・雑草の説明

「ここ数年、チモシー主体草地の植生経年変化が変わってきており、30年前までは、10年が経過した草地でもチモシーの植生割合は徐々に落ちてきていたが、地下茎雑草がチモシーより



良質粗飼料委員・伊藤委員長

最近のチモシー主体草地の植生変化では、5年を境に地下茎雑草がチモシーより増え、10年が経過した草地は地下茎雑草が6割以上と言った状態の草地が多く見られており、嗜好性の良いサイレージを収穫するためにも、定期的に草地更新が必要だ」と説明がありました。せつかくの草地更新を失敗しないためのポイントとして、除草剤散布のタイミングは草丈20〜30cm前後が目安、それ以上長くなる



草地に関して質問をする伊藤委員長

と除草剤がからない株が増える事例は少なかった。

心に講習会が進みました。ここ数年北海道の太平洋側を中心にメドウフォックステイル(雑草)が草地に拡大しており、現在のところ完全な防除対策がなく、極めて早い時期(5月)に出穂するため、チモシーの刈り取り時期には種子が草地に拡散し、収穫機械などに付着し別な畑に運ばれ拡散している実態で毎年生息域を拡大している。

この雑草は、嗜好性が悪くサイレージにしても食べ残されることや、一度草地に入ると再生力が強いので、除草剤を使っても数年で元通りに戻ってしまうため、現在の防除方としては、メドウフォックステイルが生えている草地で作業を行った際は、作業機械を掃除して別の圃場に持ち込まない方法をとるか、飼料用とうもろこしを2年以上作付し、除草剤ワンポープで茎葉処理を行うと言った方法しかないため、草地内に侵入させない対応が必要とメドウフォックステイルの防除の難しさを説明していただきました。



多くの参加者が講義に真剣に耳を傾けました

適正な哺乳管理で 丈夫な子牛を

合同
講習会

われました。常温水で冷却した場合は、バケットのフタの有無に関わらず生菌数・大腸菌数が増大になる結果となり、パスタライザー使用時は機能が正常に動作していれば効果が期待されますが、ただしパスタライザー使用上の注意点として、生菌が多く（乳房炎菌など）廃棄する生乳は使用しないことが前提となります。なぜなら大腸菌性乳房炎の乳の場合、菌が死滅する前に毒素を形成するため、子牛への影響が大きいことから使用しないことが前提となります。搾乳後、常温で初乳を放置すると生菌が増加するため搾った後、早く殺菌するなど挙げられるが、もパスタライザーの効果で生菌が気になる場合は、供給メーカーまたは、生乳課へご相談下さい。

な子牛に育てましょう！また普及センターでは「パルクをキレイにしよう！運動」を現在実施していますので、興味のある方は普及センターへ相談してみてもいいでしょうか。

「初乳の管理方法の違いによる品質変化」と題して、根室農業改良普及センター・三宅裕子専門普及指導員を講師に招き研修会が行なわれました。



三宅専門普及指導員による研修会



良質生乳生産推進委員会・西川委員長

ていただき調査が行われました。調査結果をもとに、初乳保管方法の違いによる細菌数の変化や初乳殺菌装置（パスタライザー）の効果、今日からできる改善方法の3つについての講習会が開催されました。

当初、「ほ乳量を増やすと下痢するんだけど」という農場主や、JA販売課担当が「雄子牛の販売価格が生後数日しか経たないのに農家によって何万円も違うのはなぜか？」の疑問がきっかけとなり、初乳について根室管内14戸の農家に協力し

初乳殺菌装置（パスタライザー）とは、60℃以上で30〜60分（製品によって様々）加熱処理によって病原菌（大腸菌、黄色ブドウ球菌、ヨーネ菌など）を殺菌する装置の事で、初乳の保管方法については、常温水で冷却・パスタライザーの3つのなかで調査が行

重要で、「バケットミルカ一のフタ裏パッキンなどに乳石がないか?」「ほ乳瓶の内側、乳首に乳石が残っていないか?」など、せっかく初乳の殺菌を行っても汚れたほ乳瓶では菌が増加してしまいうため、ブラシなどを用いて、こまめな手洗い洗浄や洗浄後の確認が重要となります。

その他に、前搾りの乳は汚れているので1回で終わらせずに数回行うことや、カラスやハエなどが菌を運んで来る事もあるため、侵入しないような対策も効果があると考えられます。

初乳の冷凍管理は清潔な冷凍庫で保存するのが望ましく、保管が難しい場合は搾ってからすぐに飲ませ、菌が増える前に給与するなど、適正な哺乳管理で丈夫



即経営に反映するだけに出席された参加者の方、講師の話に聞き入りました

全道JA青年部長研修会を終えて



各地区の青年部活動の紹介、経験談をスライド、動画を活用して説明

青年部員が学ぶべきことを 教えてくれた充実した2日間

北海道農協青年部協議会の主催による全道JA青年部長研修会が1月28日から29日の日程で

行われ、当青年部から野矢副部長が参加いたしました。場所はホテルモントレ札幌で

行われ、全道から約80人の青年部長、または部長候補の盟友が集まりました。会場に着いてから自分の席を探すと、7人1組のグループという形式になっており、そのテーブルには道内各地の出身者がおり、従事している農業も稲作、畑作、果樹、花き、酪農・畜産と多種多様なものであり、初対面と

いうこともある中、緊張しながら名刺交換を行いました。

リーダーシップの必要性 社会人としての基礎力の つけ方を勉強

開講式を終え、すぐ講義に入りました。『地域や仲間に関わって、巻き込んでいくリーダーとは』と題しましてKIDORAイフデザイン研究所・城戸和子講師がコミュニケーションの重要性、リーダーシップの必要性、社会人基礎力の付け方などを1対1の対話や、グループ対話、伝言・描写ゲームの要素を駆使し4時間半の間、熱心に講義していただきました。

その後は、すぐ場所を移動し『情報交換会』と称した大宴会が始まりました。お酒の影響もあり皆、和気あいあいと仕事や地域の話を中心に語り合い夜が更けていきました。

研修2日目、まずは『次世代

将来の酪農経営を 考える勉強会

青年部（松井和孝部長）では、2月3日（火）に北平糸会館において、青年部員24人が参加のもと勉強会が開催されました。

講師に根室改良普及センター堀内主査を招き、「将来の酪農経営を考える」をテーマに法人化についての基本的な説明や個人経営と法人経営でのメリットやデメリットについて簡単な説明が行われ

れました。次に部員が疑問に思っている、法人化についての質疑応答が行われ、



堀内主査による法人経営の勉強会

へのエール」ということで5つの地区会長さん達が、それぞれの地区での青年部活動の紹介や、自分の経験談をスライド、動画を活用しながら熱く話してくれました。

**グループ討議や計画書の作成をこなす
青年部組織って何？を
わかりやすく熱く語る**

うことで、JA青年部誕生の成り立ちや青年部組織って何？というところを掘り下げて解り易く熱く語っていただきました。閉講式が終わった後に昼食を食べながら、JA計根別青年部さんが作成した『トップ』という映画を見て解散となりました。この2日間、内容的にも時間的にもハードでしたが、本当に青年部員が学ぶべきことをぎつ

続いて株式会社ノースプロダクション・近江正隆講師が『農村ホームステイ事業』のこれまでの経過、そしてこれからの展望の説明があり、ここでもグループ内で討議し『これからの農村ホームステイ事業』の計画作成を行ったり、グループ単位での発表会を行ったり、多くの作業をこなしました。

そして、最後の講義として全国農協青年部組織協議会、黒田栄継会長より『青年部組織とは』とい



7人1組のグループに分かれ、各問題提起について討議しました



しり教えていただいた研修会となりました。それぞれの講義内容の濃さ、講師さん達の巧みな伝達力、北海道青年部協議会役員さん達の立派な運営力、同じ立場にある全道盟友のモチベーションの高さ等々、本当に多くの刺激を受けました。

これから自分が青年部長を務めることになろうが、なるまいが、参加できて本当に良かったなと思います。この経験をこれからの仕事や、私生活、青年部活動に活かしていける様に頑張っていきたいです。

（青年副部長 野矢貴志）



将来の法人を視野に入れ活発な質問が出されました

「株式と有限はどう違うのか？」と言った簡単な質問から「個人経営から法人経営に変えるきっかけは？」など多くの質問が上がリ、実際に法人化している部員の話なども交えながら質疑応答が活発に行われた勉強会となりました。お忙しい中、青年部の勉強会のために、資料の準備していただいた堀内主査を始め、普及センターの職員の皆様ありがとうございました。

労働力補完に取り組み、 ゆとりある生活を目指して

中春別
営農サポート
協議会

労働の軽減、地域農業活性化を目指す

団地センタートレーニング室にて中春別営農サポート協議会（南澤斎会長）の第13回通常総会が2月6日（金）に開催されました。

開会にあたり南澤会長より挨拶があり、続いて来賓より



挨拶を述べるサポート協議会・南澤会長

中春別農業協同組合小湊組合長と中春別酪農対策協議会原内副会長より挨拶をいただきました。議長には豊原地区の渡辺寛さんが指名され、議事に入りました。

議案第1号「平成26年度事業報告及び収支決算について」では、所副会長より事業報告がされ、「労働力補完のためインターネット求人を中心とした研修生の募集や各地の学校訪問などを行い、研修生と



事業報告をする所勝弘副会長

の交流や研修を行うことで人材の確保を図ってまいりました」と説明がありました。

次に議案第2号「平成27年度事業計画（案）及び収支予算（案）」では、「東京オリンピック開催決定などにより、研修生の確保が大変厳しい状況下ではありますが、会員の過重労働の軽減と地域農業の活性化を目指し、道内外の各学校との情報交換や連携を強め、研修生の安定確保に努めてまいります」と新年度事業計画の説明がありました。

その他に、議案第3号「賦課金の賦課及び徴収方法について」、議案第4号「細部規定の改正について」、議案第5号「役員選考委員の選出に

ついて」以上、全5議案が提出され全議案可決承認されました。

第4号議案細部規定の改正について「は、南澤会長より「ハウス型・同居型にかかわる利用者負担の増額については、最低賃金の値上げに伴っての事、今後また値上げになった場合、早急に対応できるようにこの細部規定の改正を行いたい」との説明をして可決承認いただきました。

議案第5号「役員選考委員の選出について」は執行部案を提出し、各地区2人の選考委員を選出され、第13回通常総会が終了しました。今後とも中春別営農サポート協議会は、会員の皆様のゆ



提出された各議案の説明に聞き入る参加者のみなさん

とりある生活を目指し、労働力補完に取り組んでまいります。本年度も昨年同様、会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

乾乳期の管理

DMIの低下を防ぐ

乾乳期管理において、乾物摂取量(DMI)を最大にするのと「食いを落とさないこと」が大切です。
 DMIに影響する要因は3つあります(左図)。

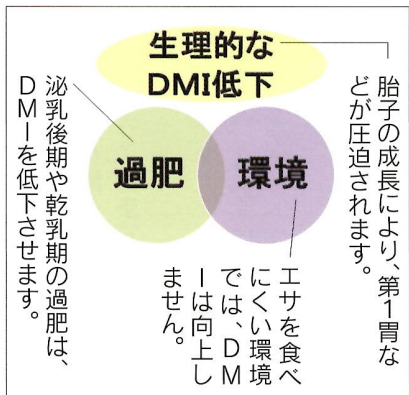


図1 DMI変動の要因

1、環境

DMIは生理的にも低下しますが、最小限に食い止めることが大切です。「環境」と「過肥」の対策を検討しましょう。

DMIを落とさないために、牛が



写真1 最大頭数時でも1頭あたり70cm確保できている例

① 十分な飼槽幅の確保
 弱い牛でも充分採食できるように、充分な飼槽幅を確保しましょう。全頭並んで採食できる飼槽幅を確保することが大切です。

② 水槽の設置

水を充分飲めることは、採食意欲(DMI)の向上につながります。広い



写真2 余裕を持った飲水スペース、飲水料も十分に確保

間口に加え、定期的に掃除してあると理想的です(写真2)。

③ 屋外飼槽周辺の泥ねい化対策

屋外飼槽で、牛が立つ場所の泥ねい化を防ぐことで、DMIは高まります。コンクリートや火山灰で整備したり、こまめな除ふんを行います(写真3)。

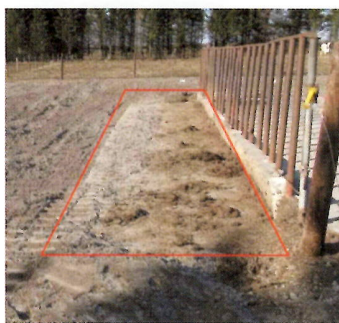


写真3 飼槽前の牛が立つ位置はコンクリートで整備

④ 広い場所で自由に行動させる

乾乳牛は生理的なDMI低下に加え、狭い場所でストレスを受けると更にDMIが低下してしまいます。乾乳牛の飼養場所周辺に、パドックとして使えるような場所がある場合、活用を検討しましょう。

2、過肥

泌乳後期の過剰なエネルギー摂取は、過肥につながります。

過肥の状態のまま乾乳期を過ごすと、DMIの低下が引き金となって、周産期疾病や分娩後の生産性低下につながる可能性があります。

泌乳後期からの管理のポイントは、

次のとおりです。

◎ 牛の状態を確認しましょう

牛の太り具合は、腰角と坐骨の肉付きで判断します。写真4の上段は太りすぎ、下段は適正な状態です。

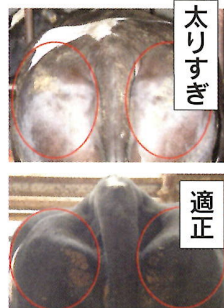


写真4 太りすぎの牛はいませんか？

① 太り具合の調整は泌乳後期から

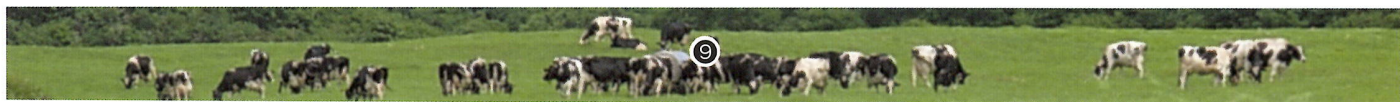
泌乳後期は乳量に対してエネルギー量が過剰にならないよう、配合の量などを調整しましょう。

② 乾乳期の盗食は過肥のもと

乾乳牛の盗食防止のために、つなぎ替えて搾乳牛から離す、仕切り板の設置、一頭分空けるなどの工夫をしましょう(写真5)。



写真5 1頭分空けて仕切り板を設置



北海道乳牛の信頼の高さを再認識する研修でした

みらい塾6期生を対象に群馬県の酪農家の視察研修に2月4日から7日までの4日間行ってきました。

1日目 府県の酪農事情 などを聞く

初日に宿泊した群馬県の高崎市は北海道と違い、冬にも関わらず雪が全くなかったのに驚きました。到着した夜に、全酪連の職員の方と懇親会を開かせていただきました。大勢で食べる夕食はとても美味しく、全酪連の方との話では、酪農の話から始まり、お酒が進むにつれ、家族の事や将来の夢の話などで大いに盛り上がり、気づくとあつという間に時間が過ぎ、普段あまり聞けない府県の酪農事情などを聞くことができて、大変有意義な時間を過ごすことができました。



家畜市場を視察、北海道乳牛の質の高さを実感

2日目 家畜市場を見学 古川牧場を視察・見学

2日目は午前中に前橋市にある家畜市場を見学させていただきました。当日は



育成牛しか市場に出回っていないなかったので、全酪連担当者に尋ねると、初妊牛を買う際は、前橋市で買わず北海道で買い付けることが多い、お客さんからも北海道から買ってくるように依頼する人も多く、北海道の乳牛がいかに群馬県の皆さんから信頼されているかを知ることができました。



質と価格で優れている中春別乳牛と褒める古川牧場の経営者

次に、群馬県北部にある昭和村の古川牧場さんを視察させていただきました。経営者である古川さんは酪農家でありながら、家畜運搬業や林業を兼業されているマルチな経営をされている方でした。古川さんが現在抱えている問題として、家畜ふん尿の処理について教えてくれました。群馬県では農地が限られており、空いた農地を取得してふん尿を散布しようとしても、周辺の畑作農家はその土地を買い占めてしまうため、草地を増やして草地に還元することができないと教え

てくれました。群馬県の酪農家は別海町の酪農家とは違い、畑作農家との折り合いが大切で、その中で上手にやっていかなければならないのだと感じました。古川さんとは牛についての話もたくさん教えていただき「根室管内の牛は北海道の他の地域の牛と比べると、乳量・繁殖の面で優れている。また、根室管内の牛では、質と価格の両面で優れているのは中春別農協の牛だ」と褒めていただき、改めて優れた良い牛を育てるために頑張ろうという気持ちになりました。

視察終了後、新幹線で東京に戻り、塾生だけの懇親会を開きました。普段だと周りに人が気にならなかった事なかつた事、聞けなかつた事を互いに話し合うことができ、みらい塾6期生としての絆がさらに深まった懇親会になりました。

最終日 大都会東京を散策 634mのスカイツリー

3日目は残念ながら佐藤さんが仕事の都合で急遽帰



窓口セールス・接客力向上を目指して

根釧地区JA窓口セールスコンクールを、弟子屈町で管内8JAから12人が参加し開催されました。

「JAカード推進」「年金口座予約推進」の2部門で商品提案能力を競いました。

当JAからは、三浦職員が「年金口座予約推進」部門に参加しました。年金友の会の活動などを笑顔で紹介しながら推進対応し、最優秀賞を獲得しました。

また、今年5月に札幌で開催される、全道大会の出場権も獲得しました。

組合員、地域利用者に信頼される窓口となるよう、更に職員一同努力して参ります。

～三浦職員より～

最優秀賞をいただき、大変驚いています。

全道大会では、より一層、分かりやすく商品を提案、推進できるよう練習し、望みたいとおもいます。



ることになり残った4人で、東京観光としてハトバスに乗り大都会東京を散策しました。ハトバスツアーでは、スカイツリーや浅草寺など定番の観光スポットを見て回りました。当日は天気にも恵まれ、スカイツリーの展望デッキから見る景色は、東京の高層ビル街がどこまでも続き、その背後に移る富士山がとても綺麗で印象



的でした。次に浅草寺に向うと、外国人や観光で来た人が多くて歩くのが大変でしたが、お寺でのお参りや人形焼きなどの東京名物を堪能することができて充実した時間をすごしました。

今回の視察で感じたことは「北海道の牛が本州の酪農家の皆さんからとても信頼されている」という事です。多額の交通費を支払い、た

くさんの時間をかけてでも北海道に牛を買いに来るとや、人に頼んでまで北海道の牛を欲しがるのは、北海道の牛が信頼されているからだ実感しました。また「いかに根室という場所が酪農を行うのに適した場所であるか」という事も再認識することが出来たことや、酪農家が大多数を占めるこの地域では、互いに相手の事を理解することができませんが、群馬県などの畑作農家と酪農家の混合地域では互いに理解し合う事の難しさを学びました。

今回の視察を通じて、あまり良く分からなかった北海道と本州の酪農の違いを知ることができ、とても有意義な視察研修とすることが出来ました。

をお届けします!



豊原保育園節分

園児たちが揃って「まめまき」の唄を歌いました

毎年恒例の節分が2月3日(火)豊原保育園で開催されまし
た。

前日の吹雪の影響で開催
が危ぶまれましたが、当日
は好天に恵まれました。し
かし、まだまだ道路状況は

悪く、保育園に続く道路脇
には車の天井の高さまで除
雪した雪が積み上がり、い
つもの景色が一変してまし

「いい子でいます!」と鬼とお約束



豆まきが終わり「いい子でいます!」と鬼さんと約束、みんな仲良く写真におさまりました

たが、何とか開催すること
ができました。
そんな中でも子供達は元
気いっぱい、自分の作った
鬼のお面をかぶり、豆まき
の準備をした園児がプレー
ームに集まってくると、元

気がいいに「まめまき」を
歌い、先生と節分にちなんだ、
クイズをして豆まきが始ま
るまでの間、過ごしました。
まめまきが始まる
直前、教室のカーテ
ンが徐々に閉まると、
勘のいい子供達
は異変を察知し
てか、真ん中に
集まりだすと、
鬼のお面をかぶ
った先生の合図
で豆まきが始ま
りました。

始めのうちは、
先生に豆を投げ
笑顔で「鬼は外、
福は内」と大き
な声で豆まきを
楽しんでいまし
ましたが、赤鬼さん
と青鬼さんが登
場すると、子供
達の表情が一変
して部屋の隅に
逃げる子や、ビ
ツクリして固まってし
まった子、先生の後ろ
に隠れる子、中には1
人勇気を出して鬼に豆
を投げる子が現れると、
また1人と立ち向かい

い、最後に赤鬼さん、青鬼さ
んと「お父さん、お母さんの
言うことを聞いて、いい子で
います」と約束をして、豊原
保育園の節分が終わりました。



ますが、投げる豆がなくな
ると勇気も一緒に投げつく
してしまったのか、園児全員
が先生の後ろに隠れてしま

また一回りお兄さん、お姉さんに 成長しました

豊原保育園親子参観

豊原保育園で子供達の成長した姿をお父さん、お母さんに披露する親子参観が2月12日(休)に開催されました。



毎日の登園と違い、お父さんお母さんと保育園で長い時間過ごす喜びのあらわれか、園児達のテンションが

高かったです。最初は「まだ寒い」と防寒の準備万端で開催の合図を待ちました。

読み札を取りに元気よくダッシュする園児たち

ここ数年、悪天候のため、屋内の開催が続いておりましたが、今年は天候にも恵まれ青空のもと久しぶりに屋外での開催となりました。



スケートリンクの前に集まり準備運動で体がほぐれ



たところで、親子参観が始まりました。まず始めは、スケートリンクでのジャンボカルタで、子供達が覚えたばかりのひらがなとかわいひが書かれた絵札が並べられ、先生が読みあげる読み札にあわせて子供と大人に別れて楽しみました。始めは、控えめな子供達でしたが、カルタの枚数が少なくなると、闘争心に火がつき、読み札が読み上げられると、いつせいに絵札に走り出し白熱したジャンボカルタになりました。

た。ソリは通常のソリと違い、ギ酸タンクをくりぬいて、子供が捕まるハンドルが中に取り付けられ、競技中に子供が転倒しづらく作られているので、リレーが始まると勢いよく走り出したお父さんお母さんでしたが、最初の数人はカーブにさしかかるとゆっくりと、減速して子供が落ちないように走って、ソリを次の人につなぎましたが、徐々にソリの扱いに慣れてきたお父さん達は、ソリを減速させることなく、カーブを回れるようになり、子供達はそのスピード感のとりこになり「もう一回」とリレーが終わってもソリを引いてもらう子供が続出しました。

最後は、リンクの周りにかくされた宝を子供と大人に別れて探す「宝探し」が始まりました。

子供達は、いつせいに雪のへこみに隠された、お菓子が入った袋を見つけたしましたが、お父



寒さも吹き飛ばすほど元気一杯！笑顔がはじけます

さんお母さんの宝探しがいかに難しく、雪の中にみかんの予定でしたが、最後の数個になると、雪に埋もれてしまい、最終的にスコップで周辺を掘り返して、大掛かりな宝探しとなりました。全ての競技が終わわり、屋内に戻ると、お弁当が用意され、いつもと違う保育園でのお弁当に子供達は笑顔で昼食を楽しみ、豊原保育園親子参観が終了しました。



まいた豆を拾い集めます



子供達手づくりの自慢のお面をかぶり元気いっぱい



お友達と仲良くしますと誓約書を読む園児



隅っこに追いやられました



鬼は外！
福は内！

赤鬼が突然入ってきて泣き出してしまいうちも...

を片手に
大広間に集まりました。鬼のお面は、各クラスでデザインが違い、他のクラスのお面を当日初めて見る子供達から、「ほし組さんのお面かっこいい」「ひよこ組さんの籠かわいい」と集まった子供同士で自慢のお面や籠を披露しました。

次に、節分の歌「まめまき」の音楽に合わせて踊り、体が温まったところで、各クラスに豆が配られると、太鼓のドンドンの音が広間に響き渡り、扉から赤鬼が姿を現せました。子供達は勢いよく部屋の端やカーテンに隠れて会場は大騒ぎになり、なかには泣

「お友達と仲良くします」とお約束！

中春別保育園節分が2月5日(木)に開催されました。
当初は、3日に開催する予定でしたが、暴風雪の影響で除雪が間に合わず、集まれる子供達が少ないため、5日に延期しての開催となりました。
子供達は、元気に「おはようございます」と登園すると、各教室で一所懸命作った鬼のお面を被り、豆を入れる籠

き出してしまいうちも...
まきどころではないと豆の籠を放り出して先生の後ろに非難する園児達、始めは赤鬼の登場にびっくりしていましたが、ほし組の年長さん先頭を豆を投げ始めますが、今年赤鬼は元気が良く、何度豆を当てても向ってくるので、負けじと豆を当て続ける園児や、手元の豆がなくなつて諦めて部屋の端に避難する園児達でしたが、最後に赤鬼さんと「お友達と仲良くします」約束をして豆まきが終了しました。



鬼さん退場でいつもの笑顔が戻ります

勇気を出して、鬼に立ち向かった園児のみなさん元気いっぱいでした。

北海道別海高等学校農業特別専攻科

2015年度 学生募集 (2次)

農業特別専攻科の特色

- ・ 18歳以上の農業を目指す方が、勤務先で就労・実習をおこないながら学校で農業の理論を学びます。
- ・ 牧草の収穫時期には家で実践を、春・秋・冬には学校に通学して理論を学びます。
- ・ 授業は10時45分から始まり、14時30分には下校となっていますので、毎日朝夕の仕事ができるようにカリキュラムが組まれております。

募集概要(平成27年度入学生版)

- 募集人員14名
- 修業年限2年間

入試日程など(2次)

願書受付	検査日	合格発表
平成27年2月16日(月) ～平成27年3月16日(月)	平成27年 3月26日(木)	平成27年 3月27日(金)
検査内容	願書配布	
作文および面接	平成27年2月13日(金)	

学校全体に係わる費用

- 学金や授業料等:45,550円

入試日程など(2次)

- 後援会費学友会費等

合計費用:76,000円

※平成26年度入学生初年度の費用

在校生の声



2年目学生 佐野 史生
別海町法人従業員
大阪府出身

私は3年前に大阪から農業を志し、北海道へ来ました。現在、農業法人に勤務しながら、農業特別専攻科で学んでいます。就労先では、搾乳などを担当しており、将来は、さらに深く農行に従事するために、日々研鑽の毎日です。農業特別専攻科では、同じ志を持った同胞と意識を高め合いながら学びあえるところが、非常に良いと思っています。

働きながら
2年間マ学びます

ニュージーランド
で研修できます
(半額助成)

全国各地から学生
が集まります

青年就農給付金
(準備型) 制度
対象校です



ニュージーランド農家との交流



専門性を高める授業

実習先農家条件(例)

- ・ 3食あり、家賃なし、交通費支給、給与支給(月5万円程度)。
- ・ 自炊、間借など、ご相談に応じます。

働きながらの通学

- ・ 正規従業員として法人や農場で働きながら通学可能。
- ・ 18歳以上であれば、年齢の制限はありません。

お問い合わせ・願書請求は下記まで

〒086-0214 北海道野付郡別海町別海緑町70-1
TEL(0153)75-2053 FAX(0153)75-2263
E-mail bekkai-t4@hokkaido-c.ed.jp

【酪農経営科 & 専攻科】

海外研修報告会 & 就農激励会を実施

海外研修を終えた農業特別専攻科2年目学生と酪農経営科酪農経営コース3年生の合同報告会が1月26日(月)に、本校農業会計室にて開催されました。本年度は酪農経営科3年生(伊藤翼、齋藤涼太、加藤瀬菜)の3人がカナダの酪農視察研修に、農業特別専攻科2年目学生(星聡)がニュージーランドにて68日間の酪農研修を行っており、それぞれ研修の概要や成果を発表しました。

報告会は別海町酪農後継者を育てる会の役員を始め多数の来賓を迎え、研修に参加した生徒・学生がそれぞれ視察研修先での写真を用いて研修報告を堂々と発表しました。

カナダの酪農視察に参加した3人の生徒からは先進的な牛舎の構造や牛を大切に育てるカナダの酪農家の姿、そして世界最高峰との呼び声高い乳牛ショーや、価格に驚いたセールの様子などが動画も交えて報告されました。



今年度卒業・修了する生徒

ニュージーラン

ド北島ケンブリッジの酪農家で研修した星君は、放牧の特徴やシェアミルク制度などについて感想を交えながら成果を報告しました。

報告会終了後には、酪農後継者として本年度卒業を予定している酪農経営科生徒4人と農業特別専攻科学生5人と来賓が一堂に会して、就農激励会が行われました。参加生徒・学生は、これからの抱負を交えてそれぞれ挨拶し、来賓のみなさまから激励の言葉を沢山いただきました。

(報告の概要につきましてはバックナンバーをご参照ください)

【酪農経営科】活動内容を報告

1月27日(火)本校体育館で農業クラブの東北道実績発表大会に出場した3発表が、全校生徒の前で発表を行いました。

この取り組みは、酪農経営科で活動している内容を普通科の生徒にも知ってもらおうと始めたものです。農業に関する実習など学習面で接することが少ない普通科生徒に、日常とは違った酪農経営科の生徒の生き生きとした様子の紹介に感心しながら、熱心に3つの発表を聞いてくれました。

なお、2月5日(木)、6日(金)には、静内町で行われた全道実績発表大会に、食料・生産区分に本校代表生徒4人が参加しております。

●【専攻科】北海道青年農業者会議参加

1月29日(木)～1月30日(金)、北海道自治労会館を会場に平成26年度北海道青年農業者会議が開催されました。今年度は専攻科から、昨年12月に行われた根室管内青年農業者会議のアグリメッセージ部門で最優秀賞に選ばれた1年目学生の青野大地さんが参加しました。

アグリメッセージ部門の発表は2日目に行われ、若き後継者や新規就農者の方々がそれぞれ自らの農業に対する思いを聴衆に向けて語りました。青野さんは「理想の酪農家を目指して」と題して、自分の想いを堂々と発表しました。また、1日目の交流会では、他管内の青年とも積極的に交流を図り、今後の酪農人生の糧となる経験となりました。同じく根室管内から出場した、農業特別専攻科のOBも多く加入している根室市4Hクラブや別海町4HC連絡協議会もプロジェクトの成果を発表し、別海町4HC連絡協議会がみごと優秀賞となりました。



別海町 4HC連絡協議会のメンバーとともに

●【専攻科】加工実習を実施

2月6日(金)、2月12日(木)別海町乳加工研修施設および農漁村加工体験施設において専攻科1年目学生が参加し、チーズやソーセージ、パン製造の加工実習を実施しました。

参加学生は、研修・体験施設の古川さん、松原さん、守川さんの丁寧なご指導のもと、酪農従事者としての目線で、牛乳などを原料とした加工品がどのようにできるのかを、興味深く学んでいました。

学生からは「チーズ製造の工程だけでなく、ホエーの使い道など、畜産の幅広い勉強ができた。」「人生初めてのパン作りだった」「パンに牛乳を混ぜるとミルクの味がしっかりとしたやさしい味のパンになる」といった声が聞かれ、非常に有意義な実習となりました。



パン製造



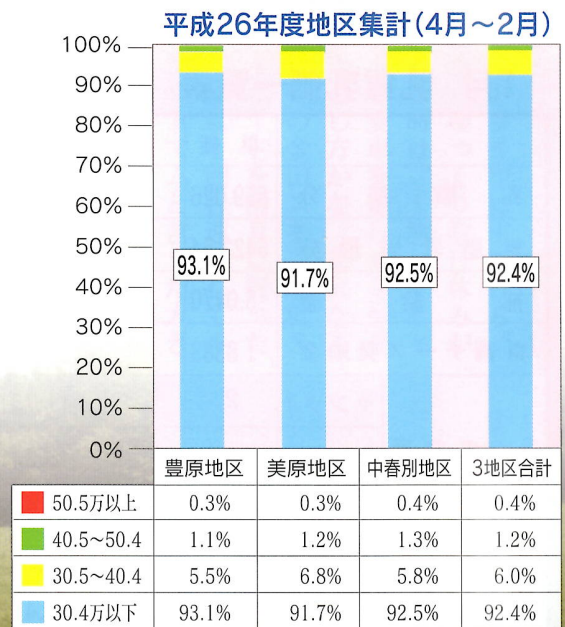
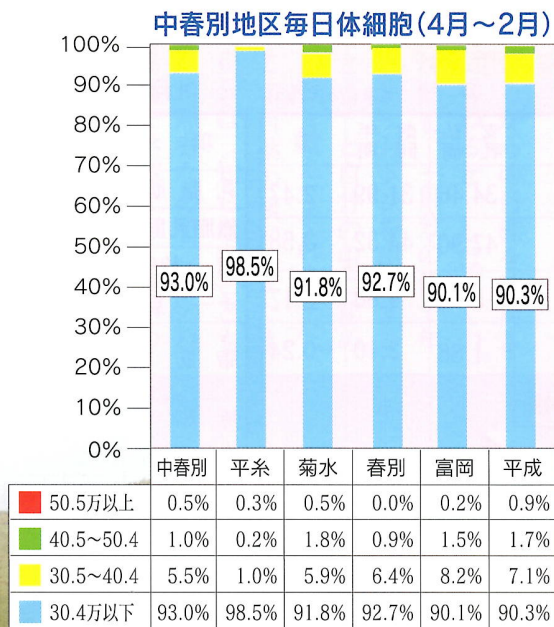
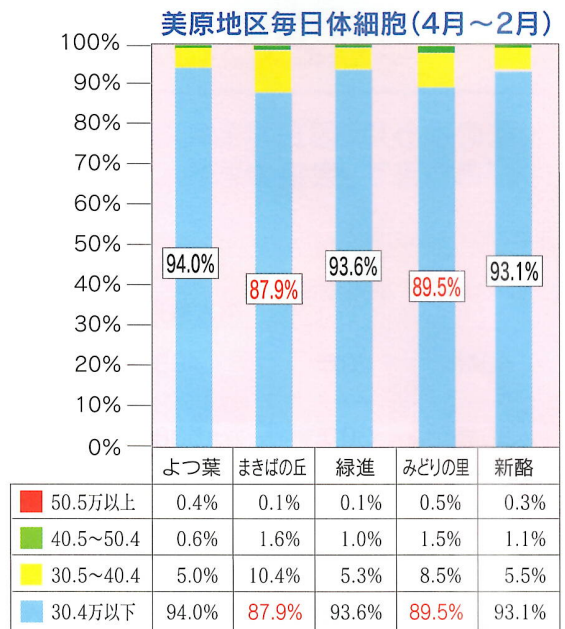
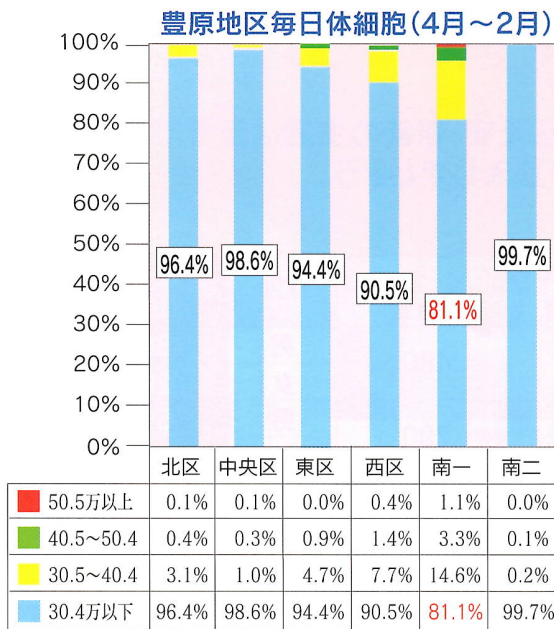
ソーセージ製造



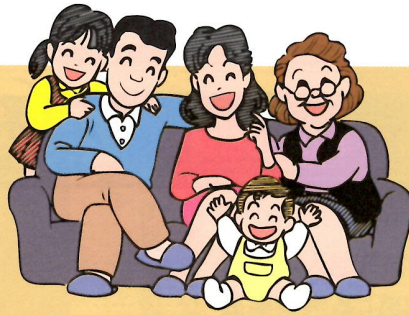
生乳汚染事故を無くそう！

- 抗生物質混入事故…………… JA中春別発生件数 **1**件 管内合計では**12**件です。
- 生菌による汚染事故…………… JA中春別発生件数 0件 管内合計では0件です。
- 異物混入(小動物)、加水、**血乳**による汚染事故… JA中春別発生件数 **1**件 管内合計では**4**件です。
- 異臭、異常風味による汚染事故…………… JA中春別発生件数 0件 管内合計では0件です。

厳冬期も過ぎ、パドックや通路、牛床の状態はどうでしょう？
 良好な畜舎環境と衛生的な搾乳作業で
 良質で安全な生乳を出荷しましょう。



あなたの老後の備えは大丈夫?



国民年金の支給額は
年額 **154万円**

農業者の皆さんが加入している国民年金の支給額は、40年加入で月額約6万4千円、夫婦あわせて月額約12万8千円です。

老後の家計費現金支出は
年額 **286万円**

高齢農家世帯（世帯主が65歳以上の夫婦2人）の家計費は現金支出で月額23万円です。（平成15年農林水産省統計）

このように、国民年金だけでは十分とは言えず、老後の生活は自分で準備する必要があります。老後の備えに、家族みんなが加入しましょう。

運用利回り2%の場合※農業者年金の保険料が月額2万円の場合。

単位:万円

加入年齢	納付期間	保険料納付総額			性別	年金額 (年額)	年金受給 総額
		本人負担分	国庫補助額	合計額			
40歳	20年	408	72	480	男	30.9	665
					女	26.2	707
30歳	30年	588	132	720	男	51.0	1,096
					女	43.1	1,163
20歳	40年	744	216	960	男	74.8	1,609
					女	63.1	1,703

※65歳以降の予定利率は1.05%で計算しています。

詳しいお問い合わせ・ご相談は、JA中春別営農振興課まで 電話 (0153) 76-2241 番へ

1月 乳質乳価一覧表

(単位:円/kg)

		単価	算出基礎	支払乳価	前年同期	差	
乳脂肪分		859.026		34.46	31.99	2.47	
無脂乳固形分		5422.54		47.90	44.32	3.58	
補給金		5.0470		5.05	4.88	0.17	
計画チーズ奨励金		1.8583		1.86	2.10	-0.24	
乳質単価	生菌数	ランク1	2	3,11,751,436.4kg	3.71	3.73	-0.02
		ランク2	0	6,338,578.1kg			
		ランク3	-3	259,454.4kg			
	体細胞数	ランク1	2	270,231,025.0kg			
		ランク2	1	25,410,918.5kg			
		ランク3	-2	4,337,722.4kg			
合計				92.98	87.02	5.96	

1月分乳代支払単価

項目	単価(円)/kg(%)	
乳脂肪分①	34円46銭	
無脂乳固形分②	47円90銭	
補給金③	5円05銭	
チーズ奨励金④	1円86銭	
脂肪率	全道	4.01%
	農協	4.07%
無脂固形分率	全道	8.83%
	農協	8.78%
成分乳価	全道	89円27銭
①+②+③+④=⑤	農協	89円49銭
乳質乳価⑥	全道	3円71銭
	農協	3円78銭
乳代合計	全道	92円98銭
	農協	93円27銭
⑤+⑥	差異	29銭

第11回 理事会の動き

平成27年1月30日(金)

議案

1. 出資金の減口及び組合員資格の変動について
2. 平成27営農年度クミカン取引計画に係る貸越極度額及び供給限度額の認定について
3. 平成27営農年度クミカン暫定取引について
4. 平成26年度良質乳生産乳用牛確保維持対策事業に伴う資金貸付について
5. 平成27営農年度財産造成に伴う資金の借入・貸付について
6. 平成27営農年度特定指導組合員及び月別限度管理組合員(案)について

報告事項

1. 組合員加入について
2. 組合員の脱退について
3. 平成26年度12月末財務状況について
4. 平成26年度12月末購買事業実績について
5. 平成26年度JAバンク北海道年末特別推進運動「北海道のおいしさドローン貯 冬のキャンペーン」及びJAバンク2014ラストWチャンスキャンペーン実績について
6. 平成26年度12月末営農生産関連実績について
7. 平成26営農年度クミカン精算状況について
8. 平成27営農年度階層区分について

第12回 理事会の動き

平成27年2月24日(火)

議案

1. 平成27年度理事報酬額の諮問(案)について
2. 回収不能債権に係る利息一部免除と貸倒処理について
3. 平成26年度自己査定に係る債務者区分判定方法について
4. 平成27営農年度財産造成に伴う資金の貸付について
5. 平成27営農年度クミカン暫定取引について
6. 農業基盤整備事業に係る賦課金の賦課及び徴収方法について
7. 平成27年度草地難防除雑草駆除対策事業について
8. リース契約について

報告事項

1. 平成26年度12月末定期監査報告について
2. 組合員加入について
3. 組合員の脱退について
4. 平成26年度1月末決算見通しについて
5. 平成26年度自己査定12月末仮査定結果について
6. 年度末貯金推進の実施について
7. 平成26年度決算棚卸実査について
8. 平成26年度1月末営農生産関連実績について
9. 平成27営農年度信用限度について
10. 組合員の離農処理について
11. 生乳抗菌性物質汚染事故に対する生乳補償互助会の支払いについて
12. 根釧酪農ビジョンについて

懐かしきあの頃…… そして今。



共進会が開催されると多くの人が会場に集まり、にぎわいを見せていました



ジャージー牛を停止させた状態で審査しています



今はホルスタイン牛を中心に共進会を開催

今月は、牛の美人コンテストである、共進会に注目したいと思います。
共進会と言うと、ホルスタイン牛を思い浮かべるのではないのでしょうか。
しかし、今から50年前はホルスタイン牛より、ジャージー牛を飼育している酪農家が多く、当時の共進会と言うとジャージー牛がメインで、共進会を行っておいしかった。
当時は、会場まで牛を運ぶのに今のようには家畜車といった車もないため、家庭用のトラックの荷台に牛を繋いで1頭づつ会場まで運んでおりました。始めの1頭目を荷台に乗せるときが何より大変で、なかなか乗らなくて苦労したと教えてくれました。
牛の審査方法についても、現在は牛を時計回りに円形歩行させ、その中から上位牛を引き出し、それらをさらに円形歩行しながら選抜し、順位をきめておりますが、当時は、白線で牛1頭分の枠の中に牛を立たせて、停止した状態のみで審査しており、審査員が1頭づつ審査用紙を片手に牛を見て回り、順位をつけていたそうです。当時は、共進会が始まったばかりで、共進会が開催されると町中の人々が会場に集り、審査会場の周りを覆いつくすほどの人で賑わったと教えてくれました。

編集後記

▼2月に入り週末毎に暴風雪が道東を襲い、1回に降る雪の量も多く、朝から除雪に追われる方が多かったのではないのでしょうか。
3月に入って日中の気温も徐々に氷点下からプラスの気温に変わり、日差しが暖かく感じる日が多くなつたように感じます。
積もつた雪もちよつとづつ小さくなり雪解けが進み、道東に春が来るのもすぐそこまできているのではないのでしょうか。

▼さて今月より、若き酪農家を対象に「次世代を担う若者達を連載することになりました。これから中春別を担う若者達が就農するまでの歴史や休日のご過ごし方など、幅広く紹介できればと考えております。

▼3月は別名「弥生」とも言われ、草木がいよいよ生い茂る月という意味があり、この月には昔から「春は苦いものを食べよ」と言われております。苦味のある山菜にはミネラルやポリフェノールなど、細胞を活性化させる成分が多く含まれており、冬から春に向けて、体も活動させるための準備を始めるこの時期にふきのとう、たけのこ、菜の花と言った食材を食べて4月からの生活に備えてみてはいかがでしょうか。